



避難に関する情報

市が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた避難指示などの避難情報を発信します。警戒レベル5【緊急安全確保】、警戒レベル4【避難指示】または警戒レベル3【高齢者等避難】が発令された場合は、避難行動をとりましょう。

警戒レベル	避難行動等	木更津市が発令	防災気象情報 (気象庁等が発表)	気象状況の目安
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。		早期注意情報	大雨の数日～約1日前
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップなどにより避難行動を確認しましょう。		大雨注意報 洪水注意報	大雨の半日～数時間前
警戒レベル 3	高齢者、障がいのある人、乳幼児など、避難に時間のかかる人は避難してください。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難	氾濫警戒情報 洪水警戒情報 大雨警戒情報	大雨の数時間～約2時間前
警戒レベル 4	危険な場所から全員避難してください。	避難指示	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報等	大雨の2時間前～大雨
警戒レベル 5	命の危険！直ちに安全を確保してください。	緊急安全確保	氾濫発生情報 大雨特別警戒情報等	数十年に一度の大雨

○木更津市が発令する避難情報等にご注意ください！
○避難情報の確実な収集手段を確認しておきましょう。

■木更津市公式ホームページ(防災サイト) ■きさらづ安心・安全メール
■木更津市LINE公式アカウント ■防災行政無線
(暴風雨の際は聞きづらくなります。ほかの手段を併せて検討してください。)
○近隣の地域で避難情報の連絡網をつくるなど、避難情報を聞き逃さないよう検討ください。

防災気象情報の伝達(プッシュ型・ブル型)について解説します。(出典:気象庁ホームページより)
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/shingikai/kentoukai/H24johokaizen/part1/part1-shiryo5.pdf>



特別警報(気象庁が公表)

- 尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- 特別警報が出てからの避難では遅いです。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
(注)過去の災害事例に照らして、指数(土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数)、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などに関する客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて発表を判断します。	
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上または長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上または長周期地震動階級4)を特別警報に位置づける)

(*)噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域地震警戒)を特別警報に位置づけています。

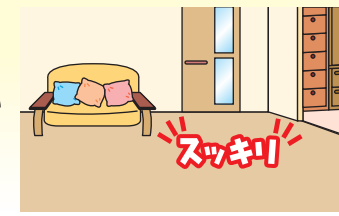


わが家の防災対策

家の中の安全対策

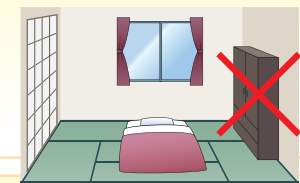
1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



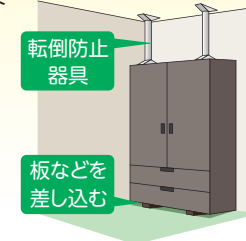
2 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。



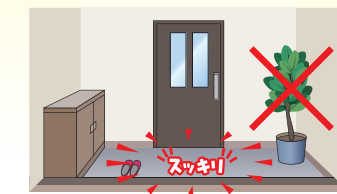
3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



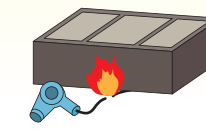
4 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



5 電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器等(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。このような電気火災を防ぐため、感震ブレーカー*等を設置しましょう。

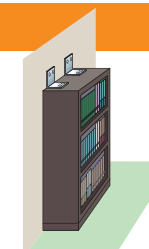


*感震ブレーカーとは、あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断しますので、電気による出火防止に効果的です。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



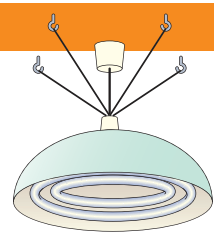
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



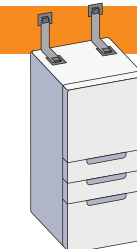
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



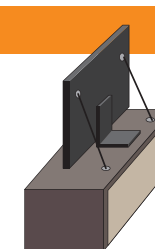
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナの補強。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。日頃からの清掃にご協力をお願いします。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。強風による飛来物などに備え、飛散防止フィルムを貼る、外側から板でふさぐなどの処置を。

